
白玉のお話

白玉www

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白玉のお話

【Nコード】

N3368M

【作者名】

白玉www

【あらすじ】

いきなりだがこの小説は白玉だ
簡単に言えば白玉な気持ちになる

……まあ変な事は言わないが読まない方がいいかもしれない
もしこの小説を読むなら『白玉www（しらたまwww）』と
一言言っただけだと幸いです

まあ内容はこんな感じかな

……っつか内容一言も言っただけええええ！！

では簡単に……主人公（ ）が高校に入学し高校生活を有効に使う

というお話

主人公は不良で彼女いない歴〃年齢で恋愛に興味Nothingという設定でいくか

誹謗中傷喜びます

字の指摘助かります

処女作なので優しくお願いします

一週間に2話ペースで 1話のページ数はバラバラです

まあこんな感じで適当な作者が書く小説を見ないで頂きたい

(前書き)

ホントに読むの？

今なら間に合う

TOPへGO

ガヤガヤガヤガヤ

??「……………」

まだ肌寒い4月の昼、ある商店街で一人の少年が歩いていた

少年はボサボサの黒い髪に黒いサングラス

白いシャツの上には黒の生地、背中に龍の刺繍が施されているスカジャン

ズボンは黒のスウェットパンツを履いている

肌は……顔黒ではなく薄めの焦げ茶色

肌まで真っ黒じゃないが見た感じ黒づくめだ

まあそんな黒づくめの少年がしばらく商店街を歩いていくと薄暗い路地裏に入っていく

??「……………」

……無言で

薄暗い路地裏に入り歩くこと約10分
長くもなく短くもない適度な時間である場所についた

その場所は……

公園

えっ公園！？って思った読者の方々

とりあえず白玉wwwwwwと叫びましょう

……話それたな

んで少年の目的地の公園の名は『やすらぎ』

名前はなんか恐いが滑り台やブランコなどがある極普通の公園だ

??」……………」

少年は公園に着くと無言のまま公園内をキョロキョロと見回している

そして少年は何かを見つけたのか無言のまま公園内に入っていた

そのまま少年は真っ直ぐに歩いていく

不良が溜まっている所に……

不良A「……んでよ、あそこで超可愛い女の子をナンパしようとし
……………んっ?」

不良B「どうした?……………なんだあの黒い小僧」

不良達は少年の存在に気づいたのか一気に不良達の視線が少年に向

き注目の的となった

少年はそんなのお構いなしとサラッと視線を華麗にスルーして不良達の所へ着き一言

??「果たし状出したのドイツだ？」

少年の一言で一瞬にして不良達が呆気にとられたが次の瞬間一斉に笑い始めた

不良B「果たし状だってよアハハハ」

不良D「アハハハ、コイツ変な事言ってんけどどうする？」

不良C「アハハハほっとけよそんな事
ってかマジ笑える」

不良A「プハハハおもしれえなこのガキ

笑わせてくれたご褒美として特別に見逃してやるからさっさと帰
な」

少年「いや俺が言ってる事聞こえた？」

果たし状出したの誰？って聞いてんの」

不良A「まだ笑わせる気かブヘラッ」

不良C「……！！　だ、大丈夫か！？」

不良B「おいガキ

俺達に手を出したらどんな事になるのかわかってんだろっな」

少年「あっ手出したらダメだった？
なら足にしょ」

不良B「いやそういう問題じゃねフグッ」

不良D「不良Bー！！」

この糞ガキ俺が相手して「お前らうつせえぞ」っ……！！」

少年の攻撃で不良達が騒いでいる事に嫌気がさしたのか滑り台の下から不良達の頭と思われる人が出てきた

頭「お前らうつせえぞコノヤロウ

俺がぐっぐすり寝てい……んっなんだこの有様」状況は不良A・B
が何故か痙攣しながら倒れていて不良Cが不良Aを必死に揺さ振っ
ている

うわっちょっ不良C揺すりすぎだっ

明らかに不良A揺さ振りが原因で顔真っ青じゃん

………可哀相ー

そしてあの真ん中に立っている少年

……明らかにあいつが犯人だな

それにしてもあの少年どこかで見た事あるような気がする

うーん、えつと……！！そうだ

頭「おいその少年
てめえか？コレやったの」

少年「Yes」

英語で返ってきた……

ってかこのガキホントに来やがった

頭「読んだか？俺の自信作」

少年「ああバツチリ
ってか漢字のミス多すぎ
公園が講演になってたし、黒い服が黒井さんの服になってた

まあ最初の講演は許してやるとして……次のなんだよあれ

なんで間違えるんだよー!!」

頭「馬鹿だし」

少年「……うん納得

まあなんで果たし状出したのかわからんが勝負してやるよ

準備運動終わったし」

頭「そりゃよかった

本気でいくからな覚悟しな」

少年「それこっちのセリフね
まあ半分は出してやるよ」

（後書き）

1話のページ数少なくてね！？って思った読者の方々
……絶対に多いと思う

自分でもそう思ったし

まあ最初だからしょうがない！！

これから少しずつページ数を増やしていくよ！！……多分

字の指摘や誹謗中傷よろしく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3368m/>

白玉のお話

2010年10月9日22時16分発行